

2021 年度実施概要

学校名

福島県南会津郡只見町立只見小学校

採択活動名

ふるさと只見、そして日本の未来を拓くたくましい子供の育成 ～ 海とのつながりを通して、地域と自分、未来を見つめ、考え、行動する ～
--

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 只見の人や自然を感じよう	第 1・2 学年	生活科
2. 森の植物や生き物をさがそう	第 3・4 学年	総合的な
3. 海とともにある只見の食文化	第 5・6 学年	学習の時間

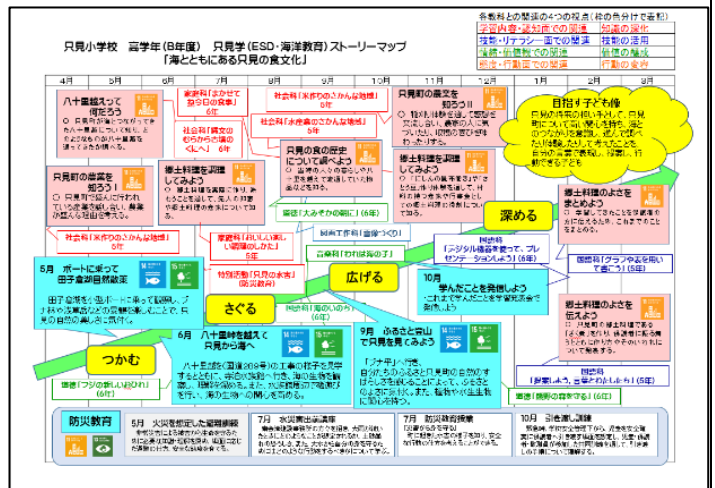
取り組みの概要

1 実践の概要

本校では、上記の活動テーマのもと、E S D・海洋教育の実践に取り組んできた。その際、コミュニティスクールの機能を生かし、地域の方々にも協力していただきながら、只見学（只見の「人・もの・こと」とふれ合いながら学ぶことを通して、自分に自信をもったり、地域に誇りと愛着をもったりして、自己の夢や目標に向かって努力することができる児童を育む教育活動）といった視点を大切に以下の様な実践に取り組んできた。

(1) E S D・海洋教育推進のためのカリキュラムマネジメント

生活科・総合的な学習の時間と各教科、学校行事等との関連を確認したり、目標や見通しをもったりしながら学習に取り組むことができるように、E S D・海洋教育の具体的な学習内容を示した「ストーリーマップ（単元指導計画）」を作成し、活用方法を工夫した。



<高学年のストーリーマップ>

(2) 子どもの学びや思いを生かした授業実践

子どもたちのこれまでの学びや思い、願い、問いなどをこれからの学びに生かしていくことができるようにするために、それらを可視化したり、教師の見取りを工夫したりした。

(3) 地域資源の教材化

子どもたちがふるさと只見に誇りと愛着をもち、主体的に学び続けることができるように、只見の豊かな自然だけでなく、人材や施設、伝統文化といった学びの資源となり得るものを教材として活用した。

2 学校行事における取組

(1) 全校で豊かな水とその循環を体感する「田子倉湖散策」「八十里を越えて海へ」

5月下旬、学区内にある、日本有数の貯水量を誇る田子倉湖の散策を行った。モーターボートに乗り、いまだ溶けきっていない大きな雪の塊や湖上からしか見ることのできないアイヨシの滝を間近で見たり、直接触ってみたりすることで「きれい」「冷たくて、気持ちいい」と「水の郷只見」のゆえんを体感することができた。また、子どもたちは、雪の塊から溶けて流れ落ちる水を見て「これが只見川になるのだ」「どこまで流れていくのかな」と、水の行く末について思いを馳せ、これからの学びに期待を膨らませていた。



<モーターボードでの散策>

6月下旬、田子倉湖から流れ出た水の行方を追いかけて、日本海へ向かった。田子倉湖に流れ落ちた雪溶け水からは想像もできないほどのどこまでも広がる海に子どもたちは感動を抑えきれずにいた。そこでは、低学年は浜辺で思いっきり遊び、中学年は生き物を調べ、高学年は海岸の様子や水質などについて調べるなど、それぞれの活動に取り組むことができた。その後、マリニピア日本海を見学した。子どもたちは、ふだんは出会うことのできない海の生き物を間近に見ることができた。



<ワカメ?見つけた!>

(2) 只見の自然の豊かさ、雄大さ、多様性を実感する「ふるさと登山」

9月上旬、1～3学年が「恵みの森」、4～6学年が「ブナ平」に出かけた。恵みの森では案内人の方に同行していただき、沢を流れる美しく豊かな水を全身で感じ、その水が育む雄大な森林とそこに住む多様な生き物と触れ合うことで、ふるさと只見への愛着



<恵みの森にて>



<ブナ平にて>

を強くしていった。ブナ平でも、案内人の方に、植物や生き物について説明をしていただきながら山を登り、只見の自然を満喫しながら、活動を進めることができた。

(3) 防災の視点に立った体験活動の充実

只見町の地域の特徴や歴史的な自然災害を学び、安全な行動を体得することができるよう、体験活動の充実を図った。



<模型を使って水害を確認>



<引渡し訓練>



<起震車による地震体験>



3 生活科及び総合的な学習の時間での取組

(1) 第1・2学年「只見の人や自然を感じよう」

① がっこうだいすき

校庭や学校周辺の林や森で、身近な自然を観察したり、友だちと交流したりする活動を通して、只見の四季の変化や春の訪れに気付いた。また、校庭に流れる小川や学校周辺の川や堀を見学し、気付いたことを話し合った。

② 田子倉湖にボートで出かけよう

田子倉湖をボートに乗って観察し、ブナ林や浅草岳などの景観を楽しむことで、只見の自然の美しさに気付いた。

③ どきどき わくわく まちたんけん

只見地区の水に関わりのある場所を中心に見学したり、地域の方から話を聞いたりするなどして、只見地区の水に関わる場所について知った。

④ ふるさと登山をしよう

恵みの森を散策し、沢を流れる清流とその水が支える木々、そして、そこに住む水生生物に関心を持ち、実際に触れて感じることで、自分たちのふるさとの自然のよさに気付くことができた。

⑤ もっと なかよし まちたんけん

只見地区の水に関わりのある人に質問をした後にもう一度水に関係のある場所へ見学に行くことを通して、只見の水が海とつながっていることに気付き、只見の自然を大切にする意識を高めることにつながった。



＜田子倉湖に流れ込むアイヨシの滝＞

(2) 第3・4学年「森の植物や生き物をさがそう」

① 森の植物や生き物をさがそう①

奥会津ただみの森キャンプ場などでさまざまな木々の若葉を採取し、樹木の葉の特徴について調べることによって、春の葉の特徴を理解することができた。また、春の生き物の様子を観察し、只見の森に生息する生き物について理解することもできた。

② 森の植物や生き物をさがそう②

奥会津ただみの森キャンプ場などを散策し、樹木と水との関係を知るとともに樹木を観察し、樹木の名前を知ることによって、どのような木々が森に生育しているのかを理解することができた。

③ ふるさと登山をしよう

「恵みの森」(3年)「山神杉ブナ平」(4年)へ行き、自分たちのふるさと只見の自然のすばらしさを感じることによって、ふるさとのよさに気付くことができた。また、植物や水生生物に関心をもつこともできた。

④ 森の植物や生き物をさがそう③

奥会津ただみの森キャンプ場などでさまざまな木々の葉の様子を観察し、樹木の葉の変化について調べることによって、秋の葉の特徴を理解することができた。また、秋の生き物の様子を観察し、只見の森に生息する生き物についても理解することができた。



＜只見の水生生物調査＞

⑤ 学習したことを発信しよう

これまで調べてきた広葉樹の様子の変化や生き物の様子について気付いたことを話し合い、その豊かさや多様性を伝えたいと、カルタにまとめることを考えた。

(3) 第5・6学年総合的な学習の時間「海とともにある只見の食文化」

① 只見町の農業を知ろう I

稲の手植え体験を通して、只見町で米作りが盛んに行われている理由や米ができるまでの流れについて理解することができた。

② 田子倉湖散策

田子倉湖をボートに乗って観察することで、只見の食を支える水について思いを広げ、その水が只見町と海とをつないでいることに気付くことができた。

③ 郷土料理について調べよう

只見の郷土料理にも海の食材が使われていることを確認した。さらに、海沿いの地域に関心を持ち、海沿いの郷土料理について調べ、海の郷土料理にも食材が使われていることに気づき、海と山とのつながりに気付くことができた。

④ 只見町の農業を知ろう II

稲刈り体験を通して感想を交流し合い、農家の人の苦勞に気付いたり、収穫の喜びを互いに味わったりすることができた。

⑤ オリジナル料理を調理してみよう I

地域の食材を使って、地元の方に指導を受けながらオリジナルレシピを考えて調理した。

⑥ オリジナル料理を調理してみよう II

実際に作った料理に只見町の食に精通している方々にアドバイスをもらい、アドバイスを元にもう一度オリジナル料理を調理した。

⑦ オリジナル料理のよさを伝えよう。

これまで学習してきたことを振り返り、プレゼンテーションを行ったり、町の広報誌を通じて発信したりすることができた。



＜山菜ピザの焼き上がり＞

活動中の写真

デジタルデータにて2～3枚の添付をお願いします。

(本ファイルへの貼り付け、別ファイルでの添付、どちらでも構いません)